

ゼミナール大会



第55回経商合同学内ゼミナール大会を開催

経済学部・商学部が合同で行っている学術大会です。さまざまなゼミから学生たちがチームを組んで参加し、約1年間にわたって学んできた研究成果の集大成を披露します。55回目を迎えた2019年度は、研究発表部門、プレゼンテーション部門、有志部門に分かれ、経済学部から29ゼミ116チームが参加。年に一度の貴重な機会を生かし、学生間でも積極的な意見交換がなされるなど、大会は大いに盛り上がりました。



参加した
学生の声

社会的に意義深いテーマを取り上げ
調査したデータを元に発表を行いました

発表テーマ

従業員の副業解禁は企業にとって有益か否か

近年は日本型の雇用制度(年功序列・終身雇用)の見直しが進むとともに、働き方改革によって残業時間が削減され、年間給与が低下すると予想されています。こうした労働者の不安を解消する方法の一つとして、「副業解禁」が注目されています。そこで私たちのグループは、企業が副業を解禁した際の反応を分析し、副業解禁が企業にどのような影響を与えるのかを探りました。

調査は1501社の企業へアンケートを送付し、138社からいただいた回答を基に分析を行いました。副業を解禁している約20社の企業からは、従業員に対して良い影響があったという結果を得ましたが、その他の多くの企業は副業解禁に対して消極的であり、本業への悪影響を危惧していることがわかりました。また、副業の内容や総労働時間の把握など、解決すべき課題も見えてきました。こうした調査結果を分かりやすく伝えるため、資料作り力を注ぎ、プレゼンテーションの練習を繰り返しました。

その結果、ゼミナール大会で優勝をいただいたほか、日本学生ゼミ大会でも発表を行い、評議員を務める企業の方からより深いお話をうかがうことができました。



▲ゼミナール大会のプレゼンテーション部門で優勝しました



▲日本学生経済ゼミナール大会でも最優秀賞を獲得しました



4年次生
興田 祐大さん
(中川ゼミ所属)

中川 ゼミ

ファイナンス論を通じて日本の経済問題を考えます

▶ 社会に出てから役立つ企業金融の知識を習得

「ファイナンス論」と呼ばれる経済学の中で、「企業金融論」という分野を扱います。例えば「わが社はどうすれば銀行からお金を借りられるのか」という課題の解決法や、逆の立場から見れば「どの企業にお金を貸し付ければ地元経済を活気づけられるのか」といった、将来に役立つ内容を学びます。ゼミでは金融に特化した新聞・テキストを使って基礎を学習し、証券取引所などの見学も行います。さらにグループ研究、プレゼン大会への参加、卒業論文の作成までを一貫して行うことで、問題解決能力、自己表現能力、文章作成能力を養います。これらの活動を3年次末までに終え、その実績をもって就職活動に臨めるようにしています。



産業・企業経済コース
中川 竜一教授

